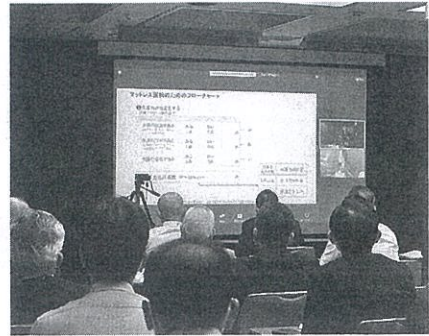


福祉用具効果に客観的根拠 多職種連携事例など発表

第3回福祉用具専門相談員大会開催

福祉用具専門相談員の専門性向上のため「福祉用具の未来につながる専門性の追求」P D C Aサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵をテーマ



に第3回福祉用具専門相談員研究大会（大会長・岩元文雄全国福祉用具専門相談員協会理事長）が16日、都内で開催された。オンラインを含め1227人が参加した。岩元会長はあいさつで「福祉用具は利用者の在宅生活を支えるため適時適切に使用することが重要だ」とし、レンタルサービスの効果を支える福祉用具専門相談員の介在の必要性を強調した。

満相談員の福祉用具導入事例」の5テーマなどで36の取り組み事例が報告された。カイクックスウィング曾於サテライトの梅北雄大氏はマットレスメーカーのタイカと連携し、OHスケールを活用して床ずれリスクを点数化し、対応した床ずれ予防マットレスの選定表を作成した取り組みを紹介。根拠に基づいたマットレス選定過程を見える化し、多職

演題発表では「PDCAサイクルの推進」「福祉用具の安全利用に向けた取り組み」「福祉用具メーカーとの連携・協働」「地域、多職種事業所の取り組み」「経験3年未

種間の情報共有が必要だとした。ヤマシタ神戸営業所の大塚洋三郎氏、同板橋営業所の大森雄也氏、三重営業所の富田健一氏は歩容解析アプリ「トルト」を使ったフレイル予防や福祉用具のモニタリングに活用した事例を発表。歩容状態を調べることでも杖よりも歩行器が適している利用者を見極めるな

どの選定にも活用しているという。福祉用具使用についての選定の根拠を可視化し、多職種との連携に生かす工夫が評価されていた。研究大会では、介護保険制度の設計に携わった元厚生労働省老健局振興課長で上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授の香取照幸氏の特別講演も行われた。